



○教育活動推進テーマ 「みんなでつくる楽しい学校」

○教育活動スローガン 「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」

1 府中第六小学校の教育目標

○自分で学べる子（知）

生涯を通して主体的に学び続けることができる子【課題設定・課題対応力】

☆は重点目標

○仲よく助け合う子（徳）

協力し合ってよりよい社会生活ができる子 【人間関係形成力】

☆たくましい子（体）

困難に立ち向かう強い心と体をもつ子 【やりぬく力】

2 学校経営の基本理念

○明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、「子供の今と未来に大切なこと」を考え、「チーム府中第六小」で地域と共にある学校経営を行う。

○人材育成、組織力の向上を図り、各主任を中心にリーダーシップとフォロワーシップを発揮させ、子供とチームのため、自分にできる役割を実行し、組織貢献力を高める。

3 目指す学校像

「認め合い、高め合い、みんなでつくる 楽しい学校」

○一人一人がよりよい校風を受け継ぎ、誇りに思う学校をつくる

○互いのよさを認め合い、高め合う、あたたかな人間関係をつくる

○自ら考え、かかわり合い、チャレンジして、明日が楽しみな学校をつくる

4 目指す教職員像

【府六プライド】 ◎愛と情熱、敬意と誠意を併せもつ教職員

○明るく、あたたかく、誠実で、協働する教職員

○よさを生かし合い、対話を大切にして、チャレンジする教職員

○組織力を活かし、主体的に課題を改善し、ピンチをチャンスに変える教職員

5 府中第五中学校区で目指す児童・生徒像

○自ら学び、考えることができる児童・生徒 ○思いやりの心をもった心身ともに健康な児童・生徒

6 中期的目標及び方策

① 確かな力を身に付けさせる学校	② 健やかな体を育む学校	③ 特別支援教育の理念を踏まえ 個を伸ばす学校
・ どの子にも楽しく分かる授業の工夫 ・ 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実 ・ 外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上	・ 体力や運動への関心・意欲の向上 ・ 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上	・ 特別支援教育体制の充実 ・ 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施 ・ 個に応じた指導の充実
④ 豊かな心を育む学校	⑤ 地域とともに子供を育む学校	⑥ つながりのある学校
・ 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成 ・ いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施 ・ どの子にも分かる、守れる生活ルール指導の徹底	・ 府中版コミュニティ・スクールと創立70周年に向けた取組の推進 ・ 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成	・ 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化 ・ たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成 ・ 学校生活の積極的な情報発信

7 今年度の取組目標及び方策（☆重点目標）

（1）確かな力を身に付けさせる学校

① どの子にも楽しく分かる授業の工夫（☆重点目標）

授業の構造化や言語活動を意図的・計画的に取り入れ、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を取り入れた授業を充実させる。主体的・対話的で深い学びを実現し、どの児童にも「分かる・できる」喜びを味わわせ、自主的、自発的に学習する態度を育てる。

全学級でタブレット端末やＩＣＴ機器を効果的に活用し、児童の興味・関心を高め、主体的に課題解決し、互いのよさから学び合う効果的な授業づくりを推進する。

算数科では、習熟度別少人数指導を充実し、個に応じた基礎的・基本的な学習内容を定着させ、個別最適な学びを推進する。

成果目標	授業がよく分かるという児童８５％以上〔結果○９３％〕、「府中市立小・中学校のグランドデザイン」を基に授業改善に取り組んだ教員９０％以上〔結果○１００％〕
方 策	授業の構造化、主体的・対話的で深い学びの実施、タブレット端末やＩＣＴ機器を効果的に活用した指導の推進、算数科の習熟度別少人数指導の充実
成 果	全教員が４つの視点に基づく授業改善やタブレット端末の効果的な活用を進め、校内研究で自立した学び手を育てる手立てを工夫した。
課 題	効果的な実践の共有と分析・実践をＰＤＣＡサイクルに位置付け、分かる授業をさらに推進する。

② 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実（☆重点目標）

「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書活動の充実、補充的な学習等の個に応じた指導を推進し、学力の向上を図る。また、「家庭学習週間」を設定し、家庭での予習・復習を見直し、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。

成果目標	学力向上の取組を評価する保護者８０％以上〔結果○９０％〕
方 策	「eライブラリアドバンス」「東京ベーシック・ドリル」の活用、「詩の暗唱」や読書週間の充実、個に応じた指導の推進、家庭学習週間の設定
成 果	「eライブラリアドバンス」、詩の暗唱、読書活動に全学年取り組み、言語活動と読書活動を充実させた。家庭学習週間を毎学期行い、意識付けを行うことができた。
課 題	家庭学習が定着した児童は７７％である。さらなる定着を図る。

③ 外国語活動の充実によるコミュニケーション力の向上

A L Tと連携して、多様なアクティビティを取り入れた英語学習の指導を工夫し、「立川東京グローバルゲートウェイ（T G G）」での英語体験（第５学年）や「英語検定E S G（第６学年）」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の取組を生かして、英語学習への意欲の向上と英語によるコミュニケーションの充実を図る。

成果目標	英語学習の楽しさを実感する児童８５％以上〔結果▼８０％〕
方 策	多様なアクティビティを取り入れた英語学習の工夫・改善、「T G G」や「英語検定E S G」、「世界とつながる英語 Enjoy Week」の効果的な取組
成 果	外国語学習に進んで取り組んだ児童は８０％で、児童が主体的に Enjoy Week に参加した。多様なアクティビティや学習の流れが確立した。
課 題	「T G G」や「英語検定E S G」と関連させ、外国語学習への意欲の向上を図る。

(2) 健やかな体を育む学校

① 体力や運動への関心・意欲の向上（☆重点目標）

体力調査結果を活用した授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジにより、体力の向上と運動の楽しさを味わわせる。

また、「未来へつなぐ府中2020レガシー」と関連させ、スポーツやよりよい生き方への関心を高めるとともに、外遊びを励行し、運動の日常化を図る。

成果目標	進んで運動する児童80%以上〔結果▼79%〕
方 策	体育の授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジ、「未来へつなぐ府中2020レガシー」に関連した指導、外遊びの励行
成 果	走力や俊敏性など課題に合った運動に取り組んだ。ロープチャレンジでは記録を掲示し、運動意欲を高めた。23学級中19学級が市内ベスト10に入った。
課 題	校庭の広さなど課題もあるが、外遊びを奨励し、体育の授業改善を進める。

② 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上

食物アレルギーの対応、食と健康、食事の習慣等についての意識を高める。また、東京都教育委員会発行のリーフレット等を活用した「がん教育」の充実、学期ごとに設定する「ノーディスプレイデー」などを通して、児童の生活習慣の改善・向上を図る。

成果目標	生活習慣の定着について評価する保護者80%以上 〔結果：○きまり94%、○あいさつ86%、▼整理整頓54%、▼家庭学習71%〕
方 策	食育の推進、「ノーディスプレイデー」による生活習慣の見直し
成 果	食物アレルギー対応を徹底し、安全な給食の実施や、家庭科と連携した食への関心を高める活動を実施した。ノーディスプレイデーを年3回行い、意識向上を図った。
課 題	保護者への啓発を進め、ノーディスプレイデーを効果的なものにしていく。

(3) 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校

① 特別支援教育体制の充実（☆重点目標）

特別支援教育コーディネーター(2名)を中心に、校内委員会を定期的・効果的に開催し、特別な支援を必要とする児童・保護者への支援方針や、外部相談機関、医療機関への連携・接続等の検討を行い、速やかな支援につなげる。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談等による専門職の助言や特別支援教育への理解を深める研修を生かし、個の特性に応じた教育活動や課題の改善を図る。

成果目標	自分のよさを実感する児童85%以上〔結果○91%〕
方 策	特別支援教育コーディネーターの2名体制、SCやSSW、巡回相談員等の有効活用、校内委員会の効果的な開催、特別支援教育の研修実施
成 果	月1回以上の校内委員会で支援方針を明確にし、年度途中の入室や合理的支援員の配置へつなぎ、支援の充実が図れた。
課 題	特別支援教育の手だてを向上させるため、研修を工夫していく。

② 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施（☆重点目標）

就学支援シートを受領した児童をはじめ、支援が必要な児童への「学校生活支援シート」、「個別指導計画」を作成・活用し、学校と家庭で定期的に目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導の充実を図る。また、学校支援員を適切に配置し、児童の学習や生活の課題改善が円滑に図れるようにする。

成果目標	支援計画に基づく計画的な特別支援教育に取り組んだ教員80%以上〔結果○96%〕
方 策	「学校生活支援シート」、「個別指導計画」の作成・活用、学校支援員の適切な配置
成 果	支援計画に基づき計画的に特別支援教育に取り組み、学校と家庭で目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導を積み重ねることができた。
課 題	引き続き学校支援員と連携し、個に応じた関わりを工夫していく。

③ 個に応じた指導の充実

学級・学校環境のユニバーサルデザイン化を組織的に行うとともに、特別支援教室けやきの指導の充実、学級担任とけやきの特別支援教室巡回指導員、特別支援教室専門員等と連絡・相談を密に行い、個に応じた指導の充実を図る。

成果目標	3かけ（目・声・心）3ほめを徹底し、児童の変容を実感する教員80%以上〔結果○100%〕
方 策	学級・学校環境のユニバーサルデザイン化、特別支援教室けやきの充実、担任・巡回指導教員等の連携強化、特別支援教育の理解・啓発の推進
成 果	3かけ3ほめを心掛け、巡回指導教員と担任、SC、SSWが連携し、指導の手だてや児童のできることを増やすことができた。
課 題	学級・学校環境のユニバーサルデザイン化を進めていく。

（４）豊かな心を育む学校

① 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成（☆重点目標）

「人権教育プログラム」を基に、進んで気持ちのよい挨拶ができる指導や、教職員自ら全児童の氏名に「さん」を付けて呼ぶ等、温かな言葉遣いを徹底する。子供同士でも、相手を尊重した呼び方や話の聞き方を心がけさせ、自他を尊重する心情と態度を養う。児童理解アンケートや「考え、議論する道徳授業」の充実により、豊かな心情や道徳的判断力・実践力の向上を図る。

成果目標	あいさつや丁寧な言葉遣いをしている児童85%以上〔結果▼80%〕
方 策	あいさつ習慣の定着と温かな言葉遣いの推進、児童理解アンケートによる望ましい学級集団の育成、「考え、議論する道徳授業」の充実
成 果	毎学期の「オアシス週間」であいさつの意識が高まり、あいさつを返す児童は多い。ふわふわ言葉の指導で言葉遣いについても意識している。
課 題	進んであいさつすること、友達同士で思いやりのある言葉を使えるよう、さらに意識させていく。

② いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施（☆重点目標）

「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを生まない、許さない学校づくりを進め、組織的に未然防止、早期発見、早期解決に努める。

「いじめに関するアンケート」、毎学期初めに行う「いじめ防止授業」、「SOSの出し方の授業」、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、「人権月間」を中心に、教職員、保護者、地域と連携して早期発見・早期対応によるいじめの根絶を図る。

また、不登校は、長期化する前に保護者と積極的に連携し、SSWによる継続的な支援やサポートルームを活用しながら、未然防止と早期解消、きめ細かな登校支援に努める。

成果目標	楽しく学校に通っている児童85%以上〔結果○87%〕
方 策	「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進、いじめ防止授業・生命尊重教育の充実、タブレット端末を活用した「心の健康観察」、サポートルーム等を活用したきめ細かな登校支援
成 果	いじめや仲間はずれをせず、仲よく生活していると回答した児童は95%である。「心の健康観察」やアンケートによるいじめの早期発見や、学校いじめ対策委員会による早期解決を図ってきた。サポートルームやSSWを活用し、個別の支援を進めることができた。
課 題	学校生活が楽しいと感じていない児童の減少に努め、いじめの根絶を図る。

③ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底

学校のきまりを守る大切さについて、「みんなのきまり」を基に教職員全員で統一した指導を行い、週ごとの振り返りや月ごとの重点目標による指導の徹底、毎学期の児童の振り返り等により定着させる。また、情報モラルの指導を計画的に繰り返し行う。

成果目標	「みんなのきまり」が守れたと感じる児童８５％以上〔結果○９６％〕
方 策	チャイム着席・廊下階段歩行・整理整頓・丁寧な清掃指導の充実、生活指導夕会による指導状況の確認と徹底、情報モラルの計画的な指導
成 果	「みかん週間」「整理整頓」など月毎の生活指導や委員会活動の取組により、きまりを守って生活する意識が向上した。
課 題	廊下階段歩行など、いつでもどこでもマナーに気を付けること、情報モラルについての意識を高めていく。

（５） 地域とともに子供を育む学校

① 府中版コミュニティ・スクールと創立 70 周年に向けた取組の推進（☆重点目標）

定期的に「学校運営協議会」を実施し、地域人材やPTA、おやじの会等との協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、キャリア教育の充実、漢字・算数検定、防災キャンプ、地域懇談会などを実施し、学校の教育力を高める。

また、創立 70 周年記念行事に向けた実行委員会を立ち上げ、学校の歴史や伝統、これまで府中第六小学校に関わってきた人たちの思いやよさを実感できる取組を工夫して、児童・保護者・地域の方々の学校への愛着と誇りを醸成する。

成果目標	保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者８５％以上 〔結果：○楽しい９２％、○安全９１％、▼まちへの愛着８４％〕
方 策	定期的な「学校運営協議会」の開催、地域人材やPTA、おやじの会等との協働、周年行事に向けた実行委員会の立ち上げ
成 果	コミュニティ協議会委員と教員との熟議、PTA、おやじの会との連携でキャリア教育、各種検定、防災キャンプなど質の高い取組ができ、教育活動が充実した。 創立 70 周年に向けて準備委員会を開催し、見通しをもつことができた。
課 題	引き続き、「学校運営協議会」やPTA、おやじの会と連携し、教育活動の充実と創立 70 周年記念行事の取組を進める。

② 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成（☆重点目標）

地域の自然環境や教育資源等を有効活用し、市政施行 70 周年と関連付けながら、教科横断的な学習、体験活動、言語活動の一層の充実を図り、自ら課題を見付け、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していく資質や能力を育成する。また、地域の人々と関わる機会を数多く設定し、勤労や奉仕の意義を理解して、地域貢献しようとする意識と実践意欲を高め、取組を広く発信する。

成果目標	まちのよさを知り、愛着をもつ児童８０％以上〔結果○９１％〕
方 策	全学年における「ふるさと学習」及びSDGSと関連付けた学習の推進、学校農園を活用した栽培学習、「郷土府中に根ざした道徳資料集」の活用
成 果	道徳授業地区公開講座、学習発表会の「ふるさと学習」等でまちのよさに気付き大切にする児童は９１％、「ふるさと学習」を工夫した教員は９６％で取組が充実した。
課 題	今後も「ふるさと学習」やSDGSと関連付けた学習を工夫・推進する。

(6) つながりのある学校

① 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化

幼稚園や保育園との情報連携や小中連携教育を通して、学習面・生活面で共通の課題の把握や改善のための取組を進める。

ア) 学習指導に関する連携推進

教科の円滑な接続や家庭学習の習慣化、キャリア教育を推進し、学習意欲や基礎的・基本的な学力の向上、学習習慣の定着、社会的自立の基盤となる能力や態度を育てる。

成果目標	小中連携の学習指導の取組が進んだと評価する教員 80%以上〔結果○91%〕
方 策	公開授業の実施による系統的な指導の充実、児童・生徒による交流活動の実施、9年間を見通した継続的なキャリア教育
成 果	府中市立学校の4つの視点を重視した学習指導を連携校で推進した。①外国語、②学力向上、③特別活動・学校行事の分科会で効果的な指導を情報共有し、学習指導に生かすことができた。
課 題	授業参観や情報共有で各校の共通の課題を把握し、改善の取組をさらに進める。

イ) 生活指導の課題の共有と校区共通の取組推進

校区として生活意識や規範意識の向上、配慮の必要な児童・生徒が落ち着いて学習活動に取り組める環境整備と指導方法の共通化を図る。

成果目標	小中連携の生活指導の取組が進んだと評価する教員 80%以上〔結果○91%〕
方 策	挨拶運動や学校行事における連携、生活指導情報の共有と解決策の実施、配慮の必要な児童への指導方法の共有化
成 果	①生活指導、②特別支援教育、③体力向上・健康の分科会で取組を共有し、健全育成や基本的な生活習慣の確立に生かすことができた。五地区サミットの提案から、地域とともに活動できる取組を新たに実施することができた。
課 題	各校の共通の課題を把握し、改善の取組を進めるとともに、児童・生徒の意見を小中連携の取組に生かしていく。

② たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成（☆重点目標）

定期的なたてわり班活動で「ラララコンサート」「お楽しみ会」「地域清掃活動」を行い、高学年のリーダー性を高め、異年齢集団での望ましい人間関係を育成する。

成果目標	たてわり班活動による児童の心の成長を実感する教員 80%以上〔結果○96%〕
方 策	たてわり班活動による児童の主体的な遊びや行事の充実
成 果	計画的なたてわり班活動で高学年が主体的に活動内容や関わり方を工夫し、思いやりやリーダー性が向上した。児童の91%が自分のよさを認識することができた。
課 題	児童同士の関わりが深まるように、たてわり班活動の内容の充実を図る。

③ 学校生活の積極的な情報発信（☆重点目標）

学校だより、学年だより（学年の窓）の充実とスマート連絡帳の更なる活用を図り、教育活動の様子を積極的に広報する。校長講話の発信、学校ホームページの積極的な更新と内容の充実等により、学校の指導方針や児童の成長の様子を分かりやすく発信し、保護者・地域との連携強化を図る。

成果目標	学校生活の様子が分かると感じる保護者 85%以上〔結果▼83%〕
方 策	スマート連絡帳の活用、学校ホームページの積極的な情報発信、校長講話の発信
成 果	学校HPの学校日記の更新や宿泊行事の情報発信、スマート連絡帳の活用に努め、83%の保護者から学校生活が分かるとの肯定的な評価を得た。
課 題	学校HPの更新が滞ることがあったため、継続的に学校生活の様子を伝えられるようにする。

8 今年度の学校評価結果（①児童・②保護者・③教員） 数値は%

【①児童461名（3～6年） ②保護者220名（家庭数350名、回収率63%） ③教員23名】

※文章による記述は、幾つかの項目の中から抜粋して行った。

(1) 学校生活について 水色マーカー部分は令和6年度の目標値を下回ったもの

設問 1 ①いじめや仲間はずれをせず、友達となかよく生活している。 ②お子さんは、友達と仲良く過ごせていると思う。 ③いじめの未然防止・早期発見・解決につとめ、いじめのない学級づくり(学校づくり)ができています。							設問 2 ①みんなのきまりを守っている。 ②お子さんは、きまりを守って行動している。 ③みんなのきまりを守って子供たちに行動させている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	95	93	5	7			児童	96	94	4	6		
保護者	95	95	3	4	2	1	保護者	94	93	5	5	1	2
教員	100	100	0	0			教員	100	100	0	0		
設問 3 ①レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いをしている。 ②お子さんは挨拶がしっかりとできる子である。 ③レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いができている。							設問 4 ①自分にはよいところや得意なことがある。 ②お子さんは、自信をもって学校生活を送っていると思う。 ③児童の自己肯定感向上のため、3かけ(目・声・心)3ほめを徹底した。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	80	74	20	26			児童	91	88	9	12		
保護者	86	83	13	14	1	3	保護者	85	81	10	16	5	3
教員	87	96	13	4			教員	100	100	0	0		
設問 5 ①やると決めたことややらなければいけないことを、最後までやりぬいている。 ②お子さんは、学習や課題に取り組む時、最後までやる抜くことができる。 ③子供たちの粘り強く取り組む力や、やりぬく力を育てることができている。							設問 6 ①学校は楽しい。 ②お子さんは、学校生活を楽しんでいると思う。 ③子供たちが楽しく学校生活を送れるよう、工夫して指導しその結果楽しく学校生活を送ることができている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	89	88	11	12			児童	87	84	13	16		
保護者	86	85	12	15	2	0	保護者	92	91	6	6	1	2
教員	100	87	0	13			教員	100	96	0	4		
設問 7 ①困っているときなどに先生たちは話を聞いてくれたり、励ましてくれたりして助けてくれる。 ②学校はお子さんの声に耳を傾け、親身になって受け止めようとしている。 ③学校は子供の声を受け止め、親身になって対応している。							設問 8 ③たてわり班活動を通じて、思いやりや協力する心を育んでいる。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	91	91	9	9			教員	96		4		0	
保護者	87	90	4	10	9	0							
教員	100	96	0	4									

設問3のあいさつについて、児童の肯定的評価は80%で昨年度より6%向上したが、保護者の肯定的評価の86%を下回る。オアシス週間や全校朝会など機会を捉えて「あいさつ」の指導を続けてきたが、自分から、相手を見て、気持ちのいいあいさつができるよう、相手に伝わるあいさつの向上を図る。

設問5については、教育目標の重点「たくましい子」の育成への取組が浸透している。めあてを達成したり解決したりする過程を大切に、個に応じた指導や支援を進め、粘り強い取組を引き出していく。

設問6については、どの児童も学校生活が楽しいと感じられる学級経営や教育活動を工夫する必要がある。毎月の「心の健康観察」や児童の様子を丁寧に見取り、一人一人が安心して楽しく過ごせるように努める。

設問7については、「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる～相手意識に立った迅速・丁寧な対応」を引き続き学校経営の柱として継続し、児童や保護者の困り感に丁寧に対応していく。

(2) 学習について 水色マーカー部分は令和6年度の目標値を下回ったもの

設問 9 ①学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けをきちんとしている。 ②お子さんは、身の回りの整理・整頓がきちんとできる。 ③学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けができる。							設問 10 ①毎日、家で学習する習慣(目安:学年×10分)が身についている。 ②お子さんは、毎日家庭学習に取り組んでいる。(目安:学年×10分) ③子供たちが意欲をもって家庭学習に取り組める工夫をしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	85	86	15	14			児童	77	70	23	30		
保護者	54	47	45	52	1	1	保護者	71	81	29	19		1
教員	96	87	4	13			教員	87	87	13	13		
設問 11 ①学校の授業がよく分かる。 ②お子さんは、漢字や計算力など学年の基本的な学習を理解している。 ③子供たちにとって分かりやすい授業をしている							設問 12 ①体を動かすことが好きで、進んで運動している。 ②お子さんは、体を動かすことを楽しみ、進んで運動している。 ③子供たちが学校生活の中で、進んで体を動かすよう、積極的に声をかけたり、学級遊びを工夫したりしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	93	94	7	6			児童	79	77	21	23		
保護者	90	86	10	13	0	1	保護者	86	78	14	21		
教員	92	91	8	9			教員	87	78	13	22		
設問 13 ①外国語の学習に進んで取り組んでいる。 ②お子さんは、外国語の学習を楽しみ、進んで取り組もうとしている。 ③子供たちが進んで外国語の学習に取り組めるよう積極的に声をかけている。							設問 14 ①まちのよさに気付き、大切にしようとしている。 ②まちのよさを知り、大切にしようとする学習の機会を工夫している。 ③まちのよさを知り、大切にしようとする心を育む学習の機会を工夫している。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
児童	80		20				児童	91		9			
保護者	70		16		14		保護者	84		5		11	
教員	74		26				教員	96		4			

設問15							設問16						
③支援計画に基づいて、計画的に特別支援教育に取り組んでいる。							③小中連携の取組を学習指導や生活指導に生かしている。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
教員	96		4				教員	91		9			

設問9の学習の準備、身の回りの整理・整頓について、保護者の肯定的評価は、児童の肯定的評価よりも大きく下回っている。児童は、学習の準備や片付けを行っているつもりでも、保護者から見ると身の回りの整理・整頓ができていない状況が考えられる。家庭と連携し、準備や片付け、持ち物の管理ができるようにしていく。

設問10の家庭学習について、児童の肯定的評価は昨年度より7%増加したが、保護者の肯定的評価は低下している。年3回の家庭学習週間とノースクリーンデーの取組と合わせ、実態に合わせた課題の工夫を継続していく。

設問11については、「主体的・対話的で深い学び」をテーマにした校内研究や府中市立学校のグランドデザイン4つの視点を重視した授業改善の成果と考えられる。児童主体の学びに向けて日常の授業改善を今後も積み重ねていく。

設問14については、今年度項目を新設し、まちのよさを知り、まちを大切にしようとする学習の機会を工夫した。児童からは90%以上、保護者からは80%以上の肯定的評価を得た。六小創立70周年を迎えるにあたり、学校と地域の歩みを学ぶ機会を一層充実させ、今後も地域を大切に思う児童の育成に努める。

設問15、16については、教員の評価項目を新設した。全教員が取組を充実させられるように努めていく。

(3) 学校運営などについて 水色マーカー部分は令和6年度の目標値を下回ったもの

設問17							設問18						
②③学校は、保護者や地域の要望に迅速に対応している。							②ご家庭に必要な情報が学校から提供されている。 ③学校は保護者に必要な情報をきちんと提供している。						
単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない		単位%	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5		R6	R5	R6	R5	R6	R5
保護者	73	86	8	3	19	11	保護者	83	91	12	8	5	1
教員	100	96	0	4			教員	91	91	9	9		

設問19						
②学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。 ③学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。						
	肯定的評価		否定的評価		わからない	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5
保護者	91	94	5	2	4	4
教員	100	100	0	0		

設問17の保護者・地域の要望への対応については、保護者と教員の評価に差があり、分からないとの回答も19%ある。要望を伺いながら、対応した内容について分かりやすい説明を行っていく。

設問18について、学校だよりや学年の窓などの紙面提供に加え、スマート連絡帳による速やかな配信や学校ホームページによる情報発信に努めてきた。速やかで分かりやすい情報提供に一層努めていく。

設問19の安全管理を含め、より一層保護者との情報連携、行動連携を充実させていきたい。

9 予算の活用状況 3月中旬までの執行状況

(1)府中市「学校経営支援予算」について

配当額 6,698,000 円 (時給アップによる年度途中増額分を除く)

(3月17日現在)

	担当名	配当割合	執行割合	執行金額
1	学習支援員 1 名(4・5年生算数TT)	39%	100%	718,000 円
2	学習支援員 1 名(3・4年生算数TT)		100%	686,400 円
3	学習支援員 1 名(4年生算数TT)		98%	158,600 円
4	学習支援員 1 名(理科支援員)		21%	122,200 円
5	学習支援委員(日本語指導)		100%	681,200 円
5	生活指導支援員 1 名(学級支援、児童の相談役)	4%	100%	260,000 円
6	特別支援支援員 1 名(学級支援、児童の相談役)	23%	100%	686,400 円
7	特別支援支援員 1 名(学級支援、児童の相談役)		100%	691,600 円
8	学校図書館支援員 1 名(図書室整備、担任指導補助)	13%	100%	782,000 円
9	サポートルーム支援員	21%	83%	698,100 円
10	サポートルーム支援員		100%	587,600 円

【取組と自己評価】

算数TT指導については、ベテランの支援員を配置し担任または少人数算数担当教員の補助に当たった。成果として、児童の学習状況を把握し、個別に支援が必要である児童に対して、きめ細かい指導を行うことができた。今後は、指導に当たった支援と担任が児童の学習の様子についてさらに情報共有を図り、個に応じた学習の進め方を充実させていく。

学校図書支援員は、図書室の図書管理及び整備を行い、充実した児童の学びに向けた学習環境を整えた。また、学級担任と連携を図り、読み聞かせや、各教科の学習で必要としている資料等を提供するなどの活動を行い、年間を通して計画的に学習を支援することができた。メディアセンター(新図書館)の開設に合わせ、担当教員との連携をさらに深め、協働して環境を整えていく。

生活指導支援員は、学校生活において、個別に支援を必要とする児童のサポートを個別や学級で行った。児童に近い存在として相談に乗ったり、休み時間にそばで見守ったりした。担任と連携をより図り、児童が安心して学習に取り組むことができる環境を今後も構築していく。

サポートルーム支援員は、教室で学習することが困難な児童や、登校に支援が必要な児童に対し、安心して登校し、自分のペースを大切にしながら学習に取り組むことができるように支援を行った。全ての子供たちが安心して登校し、学校で学習に取り組むことができるよう、保護者・担任との連携を深め、今後もより充実した支援体制を構築していく。

理科支援員については、学期途中から人員の確保が難しくなり、思うような配置ができなかった。計画的な配置に向けて、引き続き人員確保に努めていく。

(2)府中市「副校長等校務改善支援事業予算」について

配当額 1,812,160 円(※時給アップによる年度途中増額分を除く) (3月17日現在)

	担当名	配当・執行割合	執行金額
1	校務改善支援 1 名 (令和4年4月より継続勤務)	681 時間/97%	794,430 円
2	校務改善支援 1 名 (令和5年4月より継続勤務)	695 時間/100%	816,600 円
3	校務改善支援 1 名 (令和2年4月より継続勤務)	210 時間/93%	257,400 円
○業務内容 ・副校長事務補佐・校舎職員室環境整備・諸帳簿整理・資料整理(ファイリング) ・学習支援員等予算事務・調査報告事務・印刷事務			

【取組と自己評価】

3名体制という充実した配置で副校長業務の補助に当たったため、副校長の業務時間の削減に大きく貢献した。また、副校長と各支援員が円滑にコミュニケーションをとるための重要な橋渡し役となった。今後も効率的な校務支援を継続できるよう、支援員の勤務時間と依頼する業務量の適切なバランスを図っていく。

(3)『未来へつなぐ2020 レガシー』に係る予算について 配当額 100,000 円

○需用費 85,000 円 ○備品 13,138 円 執行率 98%

【取組と自己評価】

各種専門的な講師を招聘し、児童が日本や世界の伝統文化を体験的に学ぶことができた。

(2年生 馬頭琴演奏会 2年生 お囃子体験 4年生 お箏体験 6年生 茶道体験)

(4)東京都「学校と家庭の連携事業予算」について 配当額 367,440 円 (349,440 円+18,000 円)

	担当名	配当・執行割合	執行金額
1	支援員 1 名 A	100%	171,200 円
2	支援員 1 名 B	100%	171,200 円
3	スーパーバイザー	100%	18,000 円

【取組と自己評価】

サポートルーム支援員と連携を図り、友達との関わりや学校生活への不安、学習への困り感をもつ児童に寄り添い、きめ細かい声かけや支援を行ってきた。取組により不安が軽減し、安定して過ごす場面が多く見られるようになった。今後も保護者との連携の充実を図っていく。

【総括:1年間を終えて】

府中第六小学校学区は学校教育に関心が高く、協力的な保護者・地域である。校長着任1年目にあたり、保護者・地域と信頼関係を築き、児童が安心・安全で楽しい学校生活を送ることができるよう、教職員で一致団結しながら学校教育目標の達成に努力してきた。

府中市政施行70周年にあたる今年度は、「ふるさと府中」をテーマにした学習を様々な機会で行い、児童のまちを大切に思う心を育んできた。また、小中連携校で児童・生徒の相互交流や府中市立学校のグランドデザインにおける4つの視点を重視した授業改善を推進してきた。五地区サミットの提案を基に新たな活動を行うなど、地域の教育力を生かした取組が一層充実したと捉えている。

令和4年度の3学期から始まった仮設校舎での生活も今年度末で終了し、令和7年3月5日に竣工式を行い、4月から新校舎での生活が始まる。完成していく新校舎を見ながら、児童は工事関係者への感謝の気持ちと母校への愛着を深めてきた。創立70周年を迎える次年度は、新校舎の素晴らしい環境と教職員の持ち味を生かし、保護者・地域と協働しながら、児童の思いや願いを基に本校の教育活動をさらに充実・発展できるよう、校長として力を尽くしていく所存である。